

(市川市PTA連絡協議会研究大会報告書)

第2分科会 テーマ 役員選出の現状と課題 (中学校) 司会 PTA連絡協議会 監事 (若宮小)

(進行) 福栄中教頭

(参加校) 第二中、第三中、第四中、第五中、第六中、第七中、下貝塚中、高谷中、福栄中  
東国分中、大洲中、塩浜中、南行徳中、妙典中、須和田の丘支援 (参加校 15校)

《各学校の共通事項》

役員決め(本部役員と学級役員)に大変苦労している。

小学校の時と比べて、中学校では保護者の協力が得にくい。

子どもが中学生になると働く母親が増えてきて、時間的な余裕がなくなる。

本部は大変と言うイメージが強い。

役員決めの保護者会は出席人数が少なく、静まりかえった教室で顔を伏せひたすら選ばれずに終わるのを待つ、そんな耐えられない状況が毎年続いている。

父親がPTAに関わることが少ない。

《本部役員選出の現状について》

自薦・他薦の推薦制度を取り入れている学校が13校あるが、候補者があまりあがってこない。

役員選考委員会の選考のし方は、選考委員だけで決める学校、本部役員が加わる学校、教頭や校長が加わる学校と様々である。本部役員は全体的に決まりにくい、特に会長が決まらない。

選考委員が電話や訪問して役員就任をお願いする。場合により教頭や校長に電話や同行をしてもらいお願いをしているが、中々引き受けてもらえない。

同じ小学校出身者やおやじの会などの人間関係(しかし、だんだん関係が希薄になってきている)に頼って役員の依頼をして傾向がある。

1年生で役員を引き受けると3年間やる人が多い。(後任が決まらず、抜けられない)

《学級役員選考の現状について》

委員希望調査票などのアンケートを取り入れている学校が9校ある。

一人一役制度を取り入れている学校が8校ある。

1年生は入学式当日に役員決めをしている。入学式が終了し、生徒が体育館を出た後に扉を施錠し出られなくする学校やクラスに戻って役員決めをする学校などがある。2年生は新学期の最初の保護者会で決め、3年生(持ちあがりの学校)は2年生の最後の保護者会で決める学校が多い。

2、3年生に共通している課題として、保護者会への出席者が少ない。先生は出席者の中から決めてもらいたい、出席者からは少ない出席者の中から決めることに不公平であるとの批判もあり、後日先生が個別に連絡をして役員を依頼している場合もある。

学級役員の中では、学級委員は比較的決まりやすいが専門委員が中々決まらない。その後の専門委員の委員長決めは特に決まりづらい。

学級委員は担任の先生と比較的話す機会があるので、専門委員よりも人気があるのではないかと。

保護者会の参加人数は担任の先生の人気にも影響しているようである。役員決めがあっても、先生の話が聞きたいと保護者会に参加する)

《課題と対策として》

役員は大変ではあるがやったら楽しいことや為になることもあるので、もっとPTAの活動や仕事内容、魅力を理解してもらうようにアピールが必要である。

役員をやることで特典が必要ではないか。(役員をやると内申点が1点もらえる・・・等)

フルタイムで働いている人でも参加できる活動(土曜日や夜の開催など)にしなくてはなり手がいない。現学級委員が事前に次の役員を打診しておくことと決まりやすい様である。

開かれた学校(情報公開、施設開放、保護者を含めた地域人材の活用)で興味や魅力を感じてもらう。オープンスクール、体育祭や文化祭ぐらいしか保護者(特に父親)が学校に来る機会がない。親父ボランティアなどでもっと父親に学校に来てもらう機会を増やし、役員になってもらう父親候補を増やす。親父の会がある学校が6校ある。(第二中は父親全員が親父の会のメンバーに自動的に)

担任の先生と保護者をもっと話し合い距離感を縮める。

以前は若い先生は保護者のお母さん方に助けられた。そして、これから10年で1/3の先生が変わるので、保護者が若い先生を育てよう。

市川市PTA連絡協議会